

「ともにつくるミライ」

上下中学校区学校再配置推進委員会だより

NO.5

令和8年7月30日（木）

上下中学校区学校再配置推進委員会
（お問合せ）

事務局：府中市教育委員会

教育政策課 教育推進係

TEL（0847）44-9023

第5回上下中学校区学校再配置推進委員会を開催しました。

令和8年7月8日（水）13時30分から上下北小学校において、第5回上下中学校区学校再配置推進委員会を開催しました。第3回となる上下北小学校と上下南小学校の交流授業を視察した後に、意見交流を行いました。意見交流の後には、推進委員会委員長の京都産業大学西川信廣名誉教授に「学校再配置後の学校運営協議会の在り方」について御講話いただきました。

意見交流の中では、両校の児童が楽しそうに過ごしている様子から、現時点で不安に感じるという意見は出てきませんでしたが、交流授業は特別なイベントであること、本心を隠す児童もいるのではないかとのご意見もありました。そのため、今後は学期に1回アンケートを実施し、児童の不安に対するフォローを学校と連携しながら進めてまいります。

部会からの報告事項について

生徒指導部会	総務検討部会 ※大雨により開催を延期
・学期に1回再配置に関する児童の不安を聞くアンケートの実施が必要ではないか？ ・制服、靴、かばん等学用品に関する確認。	・令和9年4月からの通学タクシーのルートに関する事項。 ・上下南小学校閉校記念事業に関する事項。

児童向けアンケートの実施について

学校の再配置により児童が感じる不安を把握し、適切にフォローするために、1学期と2学期に1回ずつ上下北小学校、上下南小学校に在籍する児童を対象にアンケートを実施します。アンケート実施後は全員と面談を行い、楽しみなこと、不安に感じる事、新しい学校でやってみたいことなどを把握します。

交流事業視察を受けての意見交流

- ・上下北小学校と上下南小学校の児童の見分けがつかないくらい馴染んでいた。楽しそうに学んでいる姿を見ることが出来て安心した。
- ・高学年は大人な部分もあるので、表面上仲良くということもあるかもしれない。不安に感じる事、本音の部分は外から見ただけでは分からないところもある。
- ・交流授業は特別な日でイベントである。4月からはこれが日常になる。日常になってからのフォローも必要である。
- ・両校の先生が工夫をして、考える時間と元気に発表する時間のメリハリがあり楽しい授業であった。



京都産業大学 西川名誉教授の講話（概要）



本日の交流授業を拝見し、子どもたちの姿から大変温かいものを感じました。

保育所の保護者代表の方にも参加いただく中で、1月には小学1年生と保育所の

子どもたちとの交流も計画されているとのことですが、京都市などでは

「かけはしプログラム」として、5歳児と小学1・2年生の交流を市がリードして進めています。

こうした取り組みは、子ども同士の交流は比較的進めやすい一方で、

実は大きな課題となるのは、保育所・幼稚園の先生と小学校教員との相互理解です。

保育所では年長児は「何でもできる頼もしいお兄さん・お姉さん」として見られます。しかし小学校に入学すると、一転して「まだ何もできない1年生」と見られがちです。保育士と小学校教員では養成課程も異なり、子どもを見る視点にも違いがあります。だからこそ、子ども同士の交流だけでなく、教える側の交流や学び合いが大切になります。

来年4月には、新しい上下北小学校がスタートします。学校同士、また小学校と中学校の教員が、互いの顔と名前、担当や教育観をどれだけ理解しているかは、小中連携を進めるうえで重要な視点です。上下地域は小規模であるからこそ、教員同士がつながりやすいという強みがあります。一方で、小規模校は出会いや刺激が少なくなりがちで、学習意欲や学力面に不安が生じると言われることもあります。

しかし、小規模校だから良い、大規模校だから悪いという単純な話ではありません。小中一貫教育も小規模校も、制度や規模そのものが成果を生むのではなく、どう運用するかが大切です。小規模校であっても、一人一人に目が届く強みを生かし、地域や学校運営協議会の支援によって課題を乗り越えることができます。大規模校にも小規模校にも、それぞれの条件に応じた工夫が必要です。

その中で、学校運営協議会の役割はますます重要になります。4月から上下北小と上下南小が一つになり、新たな学校運営協議会がどのように機能を発展させていくのか。単にこれまでの仕組みを足し合わせるだけではなく、子どもたちに何を保障するのかを見据えた議論が求められます。

学校運営協議会の目的は、単なる学校支援にとどまりません。子どもたちに、15歳時点で本当の意味での学力を保障することです。ここでいう学力とは、読み書き計算だけではありません。上下のまちを知り、上下で育ったことを誇りに思い、自らの人生の課題を乗り越えていく「生きる力」も含まれます。

教員は異動のある「風の人」です。専門的な知識や新しい視点を学校にもたらしめます。一方で、地域に根ざして暮らす皆さんは「土の人」です。地域の歴史や課題、子どもたちを取り巻く環境をよく知っています。風の力だけでは、子どもを十分に育てることはできません。豊かな土があり、そこに新しい風が吹くことで、子どもたちはたくましく育っていきます。

上下には、そのような教育環境をつくっていただける土台があります。学校、家庭、地域、そして学校運営協議会が力を合わせ、子どもたちの未来を支えていくことが期待されます。



【教育長メッセージ】

令和8年7月1日付けで府中市教育委員会教育長の職を拝命した門田 雄治（もんでん ゆうじ）でございます。

上下地域における、学校の再配置に関しましては、義務教育学校になることを最終的な目標にしながら、この推進委員会においては、「令和9年4月の上下北小学校と上下南小学校における学校再配置に関すること」や「上下地域においてどんな子どもに育ってほしいのか」といった議論を深めていただいております。

5回目となります、推進委員会では上下北小学校と上下南小学校の交流授業を視察いたしまして、両校の児童が楽しそうに、真剣に学ぶ姿を委員のみなさまにも見ていただくことが出来ました。

今後も力を合わせ、子どもたちのよりよい未来のために、一つ一つ着実に取り組んでまいります。ご理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

委員会・部会の開催予定

【第4回 生徒指導部会】 7月22日(水) 15:30～ 上下中学校

【第3回 教育課程部会】 7月28日(火) 15:30～ 上下北小学校